



図書館だより



2026年
3月18日発行

秋草学園高等学校 図書館

春休みはいろいろなリセットができます。進級してもクラスの顔ぶれは変わらないから今さらと思うかもしれませんが、しかし、長い人生「今日から変える」がなかなかできません。見えないところでほんの少しだけリセットする機会が新年度です。進学も就職も引退も新年度で切り替わります。「バスの席を変える」「使うトイレの個室を変える」「お弁当を持ってくる曜日を変える」なんでもいいのです。図書館としては、「シリーズ本に挑戦する」「読む雑誌を変える」「週1で図書館でくつろぐ」「短時間ボードゲームをする」「読まなくても本を借りる」などの気持ちをもってほしいです。それが、図書館にハマるきっかけになるかもしれません。

本屋大賞 2026 ノミネート

第23回本屋大賞は4月9日(木)に発表になります。図書館がこの大賞に注目するのは、「本当に読まれている本」が一目瞭然だからです。実際昨年大賞の『カフネ』は当館でも貸出回数1位、年間を通じてほぼ貸出中でした。

さて、ノミネートは以下の通り。発表前ならばゆっくり読めますよ。

913.6-ミ『[暁星](#)』湊かなえ//著 双葉社
小説の舞台でのノンフィクションとフィクションのふたつの話の関連が最後に解き明かされる。

913.6-セ『[ありか](#)』瀬尾まいこ//著 水鈴社

913.6-ア『[イン・ザ・メガチャーチ](#)』朝井リョウ//著 日経BP日本経済新聞出版

913.6-サ『[失われた貌](#)』櫻田智也//著 新潮社

913.6-ナ『[エピクロスの処方箋](#)』夏川草介//著 水鈴社
医師である著者が『[スピノザの診察室](#)』に続いて古代ギリシャの哲学者エピクロスを絡めて人生を語る。

913.6-ノ『[殺し屋の営業術](#)』野宮有//著 講談社
第71回江戸川乱歩賞も受賞しているミステリーです。ノルマだけが生きがいの営業の天才である主人公が歩む道は……。

913.6-イ『[さよならジャバウォック](#)』伊坂幸太郎//著 双葉社
『[熟柿](#)』佐藤正午//著 KADOKAWA

913.6-エ『[探偵小石は恋しない](#)』森バジル//著 小学館

913.6-モ『[PRIZE—プライズ—](#)』村山由佳//著 文藝春秋

小説のマルチメディア化

913.6-ミ『[舟を編む](#)』三浦しをん//著 光文社。



第9回本屋大賞(2012年)の本作はマルチメディア化大賞ともいえる作品です。

辞書を作る編集者のお話。著者は実際の出版社で取材しました。滑稽・興奮・謎解きとは無縁の、ただ淡々と静かに進む出版の世界がそのまま描かれています。

2013年 映画化(松田龍平・宮崎あおい版/松竹)。数えきれないほどの賞を受賞しています。

2016年 アニメ化(フジテレビ版)

2016年 漫画化(雲田はるこ漫画/講談社)

2024年 ドラマ化(池田エライザ・野田洋次郎版/NHK)

BSドラマですが、再放送の要望が殺到して、地上波でも放映となりました。

新着コーナーの気になる本

811-ツ-2『[よく出る!漢字検定2級本試験型問題集](#)』新星出版社

3級、準2級、2級、準1級がそれぞれ新着となりました。漢検なんてずっと同じでしょ?という考えもありますが、この本は、「本番と同じ出題形式の試験型問題」20回分がついています。模試的な部分、クイズ形式な部分、漢字の基礎知識等トータルに活用できる問題集です。



☐ 司書の今月はこの本読みました

この時期は「今回はどの本が本屋大賞を受賞するのか」とソワソワします。そして、「どの本が受賞しても紹介できるようにノミネート本を1冊でも多く読んでおかななくては」と意気込む時期でもあります。私がまず読んだのは『[探偵小石は恋しない](#)』(913.6-モ/森バジル/小学館)です。いつものとおり、書名に惹かれました。小石という珍しい名前が気になるし、恋しないとはどういうことなのか知りたいし、本の帯には「97.3%が騙された超絶」なんてフレーズがあるし、読むしかありません。探偵事務所の代表小石はトリックを暴き、華麗に事件を解決する…ことを夢見るミステリマニア。しかし、現実には小石のところへ舞い込むのは色恋調査の依頼ばかり。嘆きつつも小石だけが持つ特殊な才能を生かし、クセのある色恋案件を次から次へと片付けていく。しかし、何かがおかしい…。ミスリードを誘われているのか、ただの思い過ごしか、この展開みなさんならどう推理しますか。【今井】

